

デフリンピック特集

2025年11月15日～26日の12日間、デフリンピックが東京で開催されました。ニュース等では、日本代表の選手たちの活躍する姿が、日々報じられました。新聞などでは、選手たちの活躍の他にも、スタートランプや手話通訳のモニター、字幕システム等、選手たちを支える視覚的な情報保障についても取り上げられていました。また、「見える応援」として、サインエールも取り入れられ、多くの人が用いました。見て分かる楽しさを実感できる大会となったのではないかと思います。

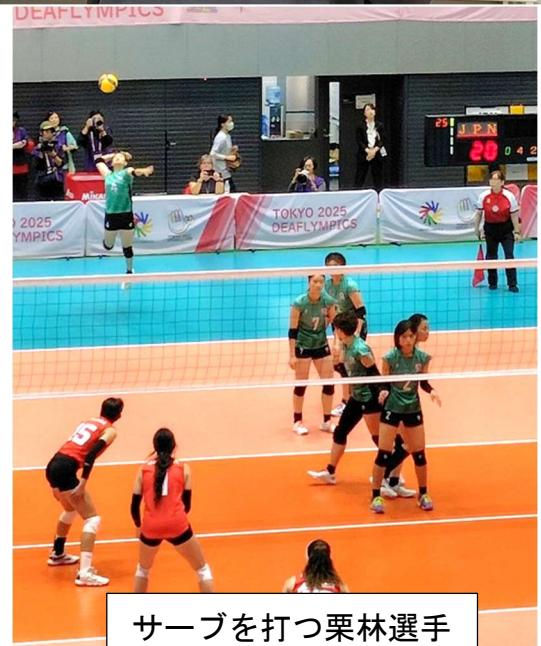
今回は、デフバレー日本代表で出場し、金メダルを獲得した栗林 愛美選手と、デフ陸上日本選手団の監督を務めた本校中学部の佐藤 將光教諭からコメントをいただきました。

デフバレーの栗林 愛美です。

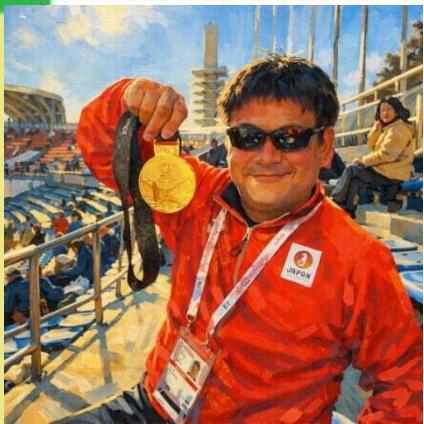
この度、東京2025デフリンピックで金メダルを獲得することができました。たくさんの応援が本当に力になりました。温かいご声援をありがとうございました。

今回のデフリンピック出場は2回目でした。前回のブラジル大会では、準決勝に進出しながらも新型コロナウイルスの影響で棄権となり、とても悔しい思いをしました。あの時から「絶対に金メダルを取りたい」という思いをずっと持ち続けてきたので、それを今回叶えることができ、本当に嬉しく思っています。また、自分の武器であるサーブで相手の流れを崩したり、サービスエースを取ったりと、チームに貢献できたことも大きな自信になりました。国際手話は未熟ではありますが、身振りやジェスチャーを交えながら、海外の選手とも交流することができ、貴重な経験となりました。

現在、愛媛チームはメンバーが非常に少なく、新しい仲間を募集しています。未経験の方も多く在籍しているので、少しでもバレーに興味がある方は、ぜひ一度体験に来てみませんか？



サーブを打つ栗林選手



デフリンピック愛媛県勢

デフ陸上日本選手団の監督を務めました佐藤 将光です。

デ夫リンピックの陸上競技には、史上最多となる 65 か国から選手が集まり、非常にハイレベルな大会となりました。

日本選手団は、自国開催という強みと、2万人を超える大きな声援を力に変えて、多くの選手が素晴らしい結果を残しました。その結果、史上最多となる 11 個のメダル、24 個の入賞を獲得し、新たな 1 ページを刻むことができました。これは、選手の努力はもちろん、支えてくださったスタッフやご家族、スポンサーの皆さん、そして応援してくださったすべての方々のおかげです。

デ夫陸上は、これからも前向きに歩み続けていきます。そのためには、皆さまのお力が欠かせません。ぜひ、今後とも応援・サポートをよろしくお願ひいたします。

また、今大会は「聞こえる・聞こえない」にかかわらず、誰もが共に楽しめる共生社会を体験する機会ともなりました。この学びをより多くの方々に広げていきたいと考えております。一緒にデ夫スポーツを盛り上げていきましょう。

八幡浜市で愛媛県初の「手話言語条例」制定

2025 年 12 月、愛媛県八幡浜市で手話言語条例（八幡浜市手話言語条例）が市議会で可決され、制定されることになりました。愛媛県内では条例制定が進んでいなかったため、今回の八幡浜市の取り組みは県内で初めての条例として注目されています。

「手話言語条例」とは？

手話が言語であることを確認し、理解と普及を進めるためのルールを定める条例です。手話はジェスチャーとは異なり、文法のある「言語」として、ろう者や難聴の人たちにとって大切なコミュニケーション手段です。国連の障害者権利条約や日本の障害者基本法でも、手話は言語として認められていることから地域でもその価値をしっかりと位置付けることが求められています。

何が変わるの？

八幡浜市の条例ではまず、「手話が言語であるという認識を基礎として、手話への理解促進や普及を進める」としています。これは、すべての市民が障がいの有無に関わらず互いに尊重し、支え合う地域社会の実現を目指すという基本理念に基づいたものです。

具体的な施策としては、手話を学ぶ機会の提供や手話通訳者・支援者の支援の充実など、手話に関する取り組みを総合的・計画的に推進することが掲げられています。条例制定は、これまでの手話啓発やイベントなどの取り組みをさらに強化する契機になると期待されています。

